

破綻金融機関の処理のために講じた  
措置の内容等に関する報告

平成21年6月

金融機能の再生のための緊急措置に関する法律  
第5条の規定に基づき、この報告を国会に提出する。

## 目 次

I	はじめに	1
II	管理を命ずる処分等の状況	
1.	管理を命ずる処分の状況	1
2.	その他	1
III	預金保険機構による主な資金援助等の実施状況及び公的資金の使用状況	
1.	預金保険機構による主な資金援助等の実施状況	
(1)	金銭の贈与	2
(2)	資産の買取り	2
(3)	優先株式等の引受け等	2
2.	公的資金の使用状況	
(1)	一般勘定	4
(2)	金融再生勘定	4
(3)	金融機能早期健全化勘定	4
(4)	危機対応勘定	5
(5)	金融機能強化勘定	5

### [参考]

- 公的資本増強行に対する取組み

1. 金融機能早期健全化法等に基づく  
経営健全化計画に係るフォローアップ・・・・・・・・・・ 6
  
2. 金融機能強化法に基づく  
経営強化計画に係るフォローアップ・・・・・・・・・・ 6
  
3. 金融機能強化法に基づく資本参加の決定について・・・・・・・・・・ 6

# 破綻金融機関の処理のために講じた措置の内容等に関する報告

平成21年 6 月

## I はじめに

本報告は、政府が破綻金融機関の処理のために講じた措置の内容その他金融機関の破綻の処理の状況について、平成20年10月1日以降平成21年3月31日までの間を中心として取りまとめたものであり、金融機能の再生のための緊急措置に関する法律（以下「金融再生法」という。）第5条の規定に基づき、国会に提出するものである。

金融機関の破綻処理に関しては、これまでも適時・適切に所要の措置を講じることに努めてきたところである。今後とも政府としては、我が国の金融システムの一層の安定の確保に万全を期してまいる所存である。

## II 管理を命ずる処分等の状況

### 1. 管理を命ずる処分の状況

報告対象期間中（平成20年10月1日から平成21年3月31日までの間、以下同じ。）、金融整理管財人による業務及び財産の管理を命ずる処分は行われていない。

### 2. その他

預金保険機構、日本長期信用銀行及びニュー・LTCB・パートナーズ社の間で、平成12年2月9日に締結された同行の譲渡に係る最終契約書等においては、譲渡実行日時時点で未確定であった債務又は損害等が、その後契約の履行や訴訟の終了等により確定した場合、預金保険機構がその補てん（金融再生法第62条の規定に基づくもの）を行うこととされている。

預金保険機構と新生銀行の間において訴訟が行われていたが、平成21年3月に裁判上の和解が成立したこと等から、預金保険機構は新生銀行に対して160億円の支払いを行った。

なお、特別公的管理銀行に係る損失の補てんの額は、これまでの累計で4,944億円となっている。

### Ⅲ 預金保険機構による主な資金援助等の実施状況及び公的資金の使用状況

#### 1. 預金保険機構による主な資金援助等の実施状況

##### (1) 金銭の贈与

預金保険機構による資金援助のうち、破綻金融機関から事業譲渡等を受ける救済金融機関に対する金銭の贈与は、報告対象期間中には行われていない。

なお、金銭の贈与の額は、これまでの累計で18兆8,673億円となっており、このうちペイオフコストの範囲内の金銭の贈与の額は7兆4,532億円、ペイオフコストを超える金銭の贈与の額は11兆4,141億円となっている。

ペイオフコストの範囲内の金銭の贈与は、預金保険機構の一般勘定で経理され、金融機関からの保険料をその財源としている。なお、ペイオフコストを超える金銭の贈与は、預金保険機構の特例業務勘定で経理され、金融機関からの特別保険料及び特例業務基金に交付された国債をその財源としていたが、特例業務勘定は平成14年度末に廃止され、同勘定に属する資産及び負債は一般勘定に帰属している。

##### (2) 資産の買取り

預金保険機構による資金援助のうち、破綻金融機関からの資産の買取りは、報告対象期間中には行われていない。

なお、資産の買取りの額は、これまでの累計で6兆4,662億円となっている。

破綻金融機関からの資産の買取りは、従来は特例業務勘定で経理されていたが、同勘定廃止後は一般勘定で経理されており、預金保険機構は同勘定において、政府保証付借入れ等で調達した資金を用いて、買取りを委託した整理回収機構に対して貸付けを行っている。

##### (3) 優先株式等の引受け等

- ① 預金保険機構による金融機能の早期健全化のための緊急措置に関する法律（以下「金融機能早期健全化法」という。）に基づく株式等の引受け等の額は、これまでの累計で8兆6,053億円となっている。

金融機能早期健全化法に基づく株式等の引受け等は、金融機能早期健全化勘定で経理されており、預金保険機構は同勘定において、政府保証付借入れ等で調達した資金を用いて、株式等の引受け等を委託した整理回収機構に対して貸付けを行っている。

(注) 金融機能早期健全化法に基づく株式等の引受け等の申請は、平成13年3月31日(特定協同組織金融機関等については平成14年3月31日)までとなっている。

- ② 預金保険機構による預金保険法第107条第1項の規定に基づく株式等の引受け等の額は、これまでの累計で1兆9,600億円となっている。

預金保険法第107条第1項の規定に基づく株式等の引受け等は、危機対応勘定で経理されており、預金保険機構は同勘定において、政府保証付借入れ等で調達した資金を用いて引受け等を行っている。

- ③ 預金保険機構による金融機関等の組織再編成の促進に関する特別措置法(以下「組織再編成促進特別措置法」という。)に基づく優先株式等の引受け等の額は、これまでの累計で60億円となっている。

組織再編成促進特別措置法に基づく優先株式等の引受け等は、金融機関等経営基盤強化勘定で経理されていたが、平成16年度末に同勘定は廃止され、同勘定に属する資産及び負債は金融機能強化勘定(下記④参照)に帰属している。

(注) 組織再編成促進特別措置法に基づく優先株式等の引受け等の申請は、平成16年7月31日までとなっている。

- ④ 預金保険機構による金融機能の強化のための特別措置に関する法律(以下「金融機能強化法」という。)に基づく株式等の引受け等の額は、報告対象期間中で1,210億円、これまでの累計で1,615億円となっている。

金融機能強化法に基づく株式等の引受け等は、金融機能強化勘定で経理されており、預金保険機構は同勘定において、政府保証付借入れ等で調達した資金を用いて、株式等の引受け等を委託した整理回収機構に対して貸付けを行っている。

(注) 金融機能強化法に基づく株式等の引受け等の申請は、平成20年3月31日までとなっていたが、平成20年12月の同法の改正により、平成24年3月31日までとなった。

## 2. 公的資金の使用状況

### (1) 一般勘定

#### ① 勘定の性格

一般勘定は、ペイオフコストの範囲内の一般資金援助等の業務を經理することとされている。一般勘定の資金は、金融機関から徴収する保険料（平成20年度の保険料率は決済用預金0.108%、一般預金等0.081%）と政府保証による民間金融機関等からの借入れ又は預金保険機構債の発行で賄うことができるとされている。

#### ② 政府保証付借入れ等の残高

一般勘定の借入金等の残高は、平成21年3月末で1兆1,432億円（民間金融機関等借入金632億円、預金保険機構債1兆800億円）となっている。

（注）特例業務勘定（ペイオフコストを超える特別資金援助等を經理）は平成14年度末において廃止され、同勘定の借入金残高3兆873億円は一般勘定に引き継がれた。

### (2) 金融再生勘定

#### ① 勘定の性格

金融再生勘定は、特別公的管理銀行に対する損失の補てん、健全金融機関等の資産の買取りを行う整理回収機構への貸付け等の業務を經理することとされている。金融再生勘定の資金は、政府保証による民間金融機関等からの借入れ又は預金保険機構債の発行で賄うことができるとされている。

#### ② 政府保証付借入れ等の残高

金融再生勘定の借入金等の残高は、平成21年3月末で1兆9,205億円（民間金融機関等借入金2,505億円、預金保険機構債1兆6,700億円）となっている。

### (3) 金融機能早期健全化勘定

#### ① 勘定の性格

金融機能早期健全化勘定は、金融機能早期健全化法に基づく株式等の引受け等に係る整理回収機構への貸付け等の業務を經理することとされている。金融機能早期健全化勘定の資金は、政府保証による民間金融機関等からの借入れ又は預金保険機構債の発行で賄うことができ

ることとされている。

② 政府保証付借入れ等の残高

金融機能早期健全化勘定の借入金等の残高は、平成21年3月末で1兆円（預金保険機構債1兆円）となっている。

(4) 危機対応勘定

① 勘定の性格

危機対応勘定は、預金保険法第40条の2第2号に掲げる業務等を経理することとされている。危機対応勘定の資金は、政府保証による民間金融機関等からの借入れ又は預金保険機構債の発行で賄うことができることとされている。

② 政府保証付借入れ等の残高

危機対応勘定の借入金等の残高は、平成21年3月末で1兆8,413億円（民間金融機関等借入金1兆413億円、預金保険機構債8,000億円）となっている。

(5) 金融機能強化勘定

① 勘定の性格

金融機能強化勘定は、金融機能強化法に基づく株式等の引受け等に係る整理回収機構への貸付け等の業務を経理することとされている。金融機能強化勘定の資金は、政府保証による民間金融機関等からの借入れ又は預金保険機構債の発行で賄うことができることとされている。

② 政府保証付借入れ等の残高

金融機能強化勘定の借入金等の残高は、平成21年3月末で1,672億円（民間金融機関等借入金1,672億円）となっている。

(注) 金融機関等経営基盤強化勘定（組織再編成促進特別措置法に基づく優先株式等の引受け等に係る整理回収機構への貸付け等の業務を経理）は平成16年度末に廃止され、同勘定の借入金残高60億円は金融機能強化勘定に引き継がれた。

(注) 預金保険機構の各勘定の政府保証及び借入金等の状況については〔参考Ⅲ〕参照。

○ 公的資本増強行に対する取組み

1. 金融機能早期健全化法等に基づく経営健全化計画に係るフォローアップ

- ・ りそなホールディングス及びりそな銀行、ほくほくフィナンシャルグループ、西日本シティ銀行により経営健全化計画の見直しが行われ、見直し後の新しい経営健全化計画が平成20年11月7日に公表された（経営健全化計画は、原則として4ヵ年計画であり、2年を経過する時期に新たな計画の策定を求めることとされている）。

（注）上記公表資料については〔参考Ⅳ－1－1〕参照。

- ・ 平成20年9月期の経営健全化計画の履行状況報告が、平成20年12月19日に公表された。

（注）上記公表資料については〔参考Ⅳ－1－2〕参照。

2. 金融機能強化法に基づく経営強化計画に係るフォローアップ

- ・ 紀陽ホールディングス及び豊和銀行から提出された平成20年9月期の経営強化計画の履行状況報告が、平成21年1月30日に公表された。

（注）経営強化計画の履行状況報告の概要については〔参考Ⅳ－2〕参照。

3. 金融機能強化法に基づく資本参加の決定について

- ・ 北洋銀行、福邦銀行及び南日本銀行からそれぞれ提出された経営強化計画について、金融機能強化法第5条の規定に基づき審査した結果、いずれも法令に掲げる要件に該当するものと認められたことから、平成21年3月13日、北洋銀行に対し1,000億円、福邦銀行に対し60億円及び南日本銀行に対し150億円（3行合計で1,210億円）の資本参加を決定した。

（注）経営強化計画の概要については〔参考Ⅳ－3〕参照。